



埼玉支部報 第1号

目次

支部設立

埼玉支部長就任のご挨拶(石橋正美)	1
埼玉支部が30番目の支部として発足(大久保春美)	2
埼玉支部設立記念山行(藤野欣也)	3
設立準備活動を振り返って(臼木博信)	4

本部総会で埼玉支部がデビュー

5

支部組織の紹介

埼玉支部の組織図	5
各委員会の内容と抱負(各委員長)	5
支部会員名簿(2010年6月現在)	8

編集後記

8



埼玉支部長就任のご挨拶

石橋 正美



設立総会での石橋支部長

この度日本山岳会の30番目の支部として埼玉支部が発足するに当たり、支部長の職を仰せつかりました石橋でございます。諸先輩を差し置いてこのような大役を引き受けることに内心忸怩たるものがありますが、また一

方では、果たして多くの会員の期待にそえられるかと考えますと、その責任の重大さに身の引き締まる思いがいたします。同時に、支部設立に向けて大変ご苦勞をおかけした準備委員、発起人会の方々には厚く感謝申し上げたいと存じます。

今の日本山岳会の現状をみますと、高齢化が進み、会員も減少傾向にあって、昔のようなパワーに陰りがみられることは疑いをいれない事実であると認識いたしております。このことは歴代会長も繰り返し会報等で述べておられますが、優れた伝統と卓越した実績に輝いた100年の歴史が、これからの100年、このままでは衰退あるいは消滅しかないのでは、と心配されます。歴代会長が特に強調されるのは、日本山岳会を活性化させるには、支部が元気でなければならない、支部活動を通じて活性化を図ろうということです。そして全会員の半数が支部のない地域に散在している現状から、そうした地域

に新しく支部を作ろうという本部の動きがここ数年来活発になり、過去3年の間に千葉、茨城、栃木の3支部が新しく誕生し、今年に入って東京多摩支部が、続いて埼玉支部が4月に設立されました。支部の存在は地域の会員に交流の場を提供し、共に活動することで仲間意識を育て、楽しいクラブライフを通じて日本山岳会の会員であるという、自覚と誇りを強く持ってもらう効果が期待されます。更に新しい会員の獲得に弾みをつけることも容易になります。今や日本山岳会は会員の減少傾向に歯止めがかからず、財務の面でも年々厳しくなっているという聞いております。特に若い会員が少ないことから、会本来の登山活動にも支障が出ることは容易に想像されます。支部活動の重要な柱のひとつとして、新しい会員の獲得に力を注ぎたいと存じます。

支部活動を有効に運営するために、集会、山行、自然保護、広報など7つの専門委員会を設けました。それぞれ埼玉支部を特徴づける具体的な方策を模索しておりますが、徐々に委員会としての体裁は整いつつあります。ま

た、いままでアンケートやら、支部設立の同意を求めた際など、皆さんからたくさんのご意見を頂いておりますので、それらも参考にしながら、出来るだけ多くの会員に参加して頂けるような魅力ある企画を考えたいと存じます。

もとより私は支部長として適性があるとは思っておりません。しかし幸い、野村孝義、大久保春美両副支部長以下役員になられた方々は、皆さん有能な方ばかりです。特に富樫信樹事務局長の周到にして緻密な事務能力は正に人を得た思いがいたします、私は、大舟に乗った気持ちで支部運営の舵取りに精をだします。

会員の皆さんにおかれては、身近に作った埼玉支部を積極的に利用して大いに盛りたてて頂きたいと存じます。本当の意味で支部が活性化するかどうか、これは構成員である皆さんの、参加意識如何に掛かっていると思いません。皆さんのお力を頂きながら、立派な支部を作り上げることをお誓い申し上げてご挨拶いたします。

埼玉支部が30番目の支部として発足

大久保 春美

4月4日、「さいたま市民会館おおみや」において日本山岳会埼玉支部の設立総会が開催され、全国30番目の支部がここに発足することになった。

昨年来、支部設立に向けて準備会、発起人会を立ち上げて鋭意準備をすすめてきたが、埼玉在住の日本山岳会会員294人のうち140人の入会希望者を得て、ようやく設立にこぎつけることができた。総会には65人が出席した。この140人は全国で8番目の規模を誇る。

設立総会では、支部規約案、事業計画案、予算案、などが審議され、支部役員を選出を含めて全て原案通り承認された。支部長には石橋正美会員、副支部長には野村孝義会員、大久保春美会員をそれぞれ選出した。

来賓として出席した藤本慶光副会長からは、「日本山岳会は尾上会長の元に4つの大きなテーマを推進している。法人改革、若い人の入会促進、支部活性化、山の日の制定である。①支部化により支部のメンバーでなければ実行出来ない企画で活動してほしい、②仲間を増やして10%アップを目指してほしい」と、お祝いと激励の挨拶を頂いた。

支部の運営については「会員一人ひとりが支部の構成

員」であることを実感できる運営をめざし、できるだけ多くの会員が支部運営に参画できるような体制を整えることが、当面の目標である。そのため、会員にはできるだけ各専門の委員会に所属していただくよう呼びかけることにする。

支部の目的であり活動の柱になる事業を6項目に分類し、①登山事業、②集会事業、③広報事業、④公益公開事業、⑤委員会事業、⑥その他の事業、とした。これらの事業を、集会委員会、山行委員会、広報委員会、自然保護委員会、総務委員会、安全登山委員会、社会貢献委員会の各専門委員会が連携しながら事業を進めていくことになる。

具体的な事業計画は特に提案されなかったが、支部委員会ならびに前記専門委員会を早急に開いて、埼玉の特色を生かした具体策をそれぞれ策定していきたい。

総会終了後、席を改めて祝賀会が開催され、招待者と会員70人が参加した。冒頭、尾上会長からのメッセージが披露された。その中で会長は「日本山岳会の活性化の源は支部活動にある、おおいに支部の活性化をはかりクラブライフを楽しんでもらいたい。そして、会員の増

強のために力をつくしてほしい」と訴えておられる。また、近隣の山梨、千葉、東京多摩、茨城各支部から来賓として出席された方々からそれぞれご祝辞を頂き、その他多くの支部から祝電を頂戴した。差し入れの清酒やワインも披露され座はにぎやかに盛り上がった。席上、支部の設立を心待ちしていたという意見も多く聞かれ、今後の支部運営の話題に花が咲いた。

支部会員の平均年齢は 66 歳に近いが、高齢であることは決してマイナス要素だけではない。山歴はもちろん、さまざまな分野において深い見識をもつ会員が揃っているのも高齢者の集まりでもある支部の特色である。新しい知己を得て、お互いに学びあい、山の楽しさを共有できるのも支部活動の大きな楽しみである。より多くの会員の支部への入会を歓迎したい。

埼玉支部設立記念山行

藤野欣也

明治 39 年 10 月発起人 7 名によって山岳会が創設され翌年には支部として、新潟支部・横浜支部が承認された。

明治 42 年 6 月には名称を『日本山岳会』と改称し、一時支部制度の廃止がされた時期もあったが、昭和 10 年再び支部の設立が認められ、戦後は続々と支部が設立された。その後一部支部の廃止、再興等があり現在の日本山岳会の支部組織となった。

そして去る平成 22 年 4 月 4 日埼玉支部設立総会が開催され、新しい支部として『日本山岳会埼玉支部』が、山岳会創設 105 年目にして誕生した。

埼玉の県名を冠した支部の記念山行が 4 月 11 日の日曜日、馴染みの深い奥武蔵の丸山と決定し実行された。以下はその記念山行の一日を追ったものである。

当日は、西武秩父線芦ヶ久保駅前に電車、車などで集合した参加者は男女合わせて 32 名支部長挨拶に続き担当者から今日の日程の説明を受けた後、一同は 2 班に分かれ出発した。天候も時々雲間から日のさす、まざまざの山行日和となった。

国道 299 号を渡り、舗装された登り道をたどる。目的とする山は北緯 35 度 59 分 19 秒 東経 139 度 09 分 34 秒 標高 960.3m の丸山である。登るにつれ淡いピンクの花の山桜、スイセンは黄色の花で我々を迎えてくれた。

出発して 40 分もしたころカタクリの自生地案内板がありこれに導かれ、一寸寄り道をする。山の傾斜地にはカタクリが可憐な花を地に向けひっそりと咲いていた。そんな姿を写真に納める会員。目に焼き付かせる会員、それぞれ思い思いの一時を過ごし元に戻った。

再び山道を山頂目指し歩を進める。標高 700m 程登ったあたりで左手の樹木の間からは秩父の名峰、両神山その右手には雪をまとった浅間山の姿が望まれた。さらに山道を登り野外センターの案内板を見ながら右に登路を

とる。展望台のある頂上に到着したのは 12 時を少々まわっていた。このころより雲の切れ間が多くなり、太陽の日差しが強くなって日蔭でないと暑いくらいとなった。参加者は思い思いの場所に腰を下ろし昼食とした。昼食を終えた会員は展望台に上がり奥秩父の山波、西上州の山々、赤城の山の右には日光の山と、その前山の安蘇の里山、近くには堂平山、笠山、奥武蔵の峰々は手の届きそうな目前に、360 度の展望を楽しんだ。



丸山頂上でのコーラス

一休みの後全員集合し改めて自己紹介、男女とも多様な埼玉支部の面々、同好の志の集いは楽しさいっぱいの昼食タイムとなった。続いて予め用意されていた歌集を手に全員でコーラス、岳人の歌をはじめ、雪山讃歌、四季の歌など 6 曲程を四囲の山にこだませ、頂上での休息時間は瞬く間に過ぎた。

帰路は大野峠経由で林間の山道を下る。途中沢沿いで一休み、このころより少し風が出てくる。天候の変化を思わせる風。空も幾分暗くなってきた。まだ雨粒は落ちて来ないが気になる空模様。駅前に戻るまでは何とか頑張ってほしいと願いながら歩を進める。

やがて眼下に国道が見え、民家の横を通りぬけると舗装道路に出た。飯能から秩父に通ずる国道 299 号線の歩道に出たあたりからぼつぼつと雨が落ちて来た。傘を必要とするほどではない。車に注意しながら 2 キロ程の側道を芦ヶ久保駅に向かう。全員が駅前に到着したのは午後 3 時を少し過ぎていた。

駅前で簡単に解散式をし、今回の記念山行はなんのトラブルもなく無事終了した。

歴史ある日本山岳会。その 30 番目の支部として発足した『埼玉支部』の第一歩が踏み出された。その記念すべき最初の山行に参加し、改めて山岳会の会員としての自覚を強くした。

日本山岳会の名にふさわしい品格と識見、自然に対する謙虚な姿勢、自己の力量を知り足元の山を大切にす

心などなど多くが想い起こされた一日であった。

一つの組織が作られこれを維持発展させていくとき、この先に立ち役目を負う方々の御苦労を思い、一会員として何ができるだろうか、何をすべきかを自己に問うたとき、まずは行事に出席することではないかとの考えのもとに今回参加したものである。

そして多くの会員の方々と面識を持つことができた。組織とは有り難いもので、初対面の方であってもすぐのうちとけ、会話の中からも人柄を感じ、楽しい思い出で多い一日を過ごす事が出来た。私自身としては既に後期高齢者となり、能力・体力共に減退の一途をたどる身ではあるが、山歩きを通じこの減退に少しでもブレーキを掛ける事が出来ればとの思いで今後とも身に相応した山行を続けて行きたく考えるものである。

埼玉支部の設立準備活動を振り返って

臼木博信

ここ数年日本山岳会の方針としても、未だ支部の設立がなされていない県、特に多くの会員が在住している首都圏をなんとかしなければ、という気運が増している。その中で埼玉県はどうなるのかな、という感があつた。

そうした時に千葉支部を立ち上げられた篠崎仁さんにお会いした折に、その準備活動について縷々お話を聞いた。埼玉で準備に入るなら体験に基づいた協力は惜しまない、というご厚意に満ちたお言葉もいただいた。

その後、山関係ではなく仕事上で、昨年 6 月初めに東京のビッグサイトで開かれていた産業展（国際食品工業展）でたまたま J A C の尾上会長にお会いした。尾上さんは、仕事上で（社）日本食品工業会の会長を務めていらっしゃる。その時に未だ支部組織がない首都圏の話になり「動いてくれないか」との示唆があり、その場では「やる」という返事はしなかったが、その後支部ご担当の神崎副会長にお会いした。神崎さんも、ご自分が住まわれている多摩地区の支部設立準備活動が進められているので、参考資料や進め方で協力しようとのお話をいただいた（東京多摩支部は、2 年間の準備期間を経て、本年 2 月に設立された）。

上述のお二方の支部設立に関わる諸体験を聞かせていただき、そうした先行支部の活動を参考にさせていただければ、なんとかなるだろう、との結論に至った。まず、準備活動として県内在住者の把握を J A C 本部の原簿や

会員名簿によりほぼおこなった。ただ、二つの名簿の内容は必ずしも全てが一致するものではなく困惑もあつた。次いで、神崎副会長と共に準備に協力していただけそうな、又これまでの J A C における活動を観ながら、埼玉在住会員の中から約 40 名の方々を選んだ。

7 月に入り早速その 40 名の方々に、9 月 1 日に J A C のルームにて「第一回埼玉地区支部化準備懇談会」を開く旨の連絡を取った。遠路雲取山から小屋主の新井新太郎氏も J A C のルームに来たのは何十年振りかなといながら参加された。その後何回かの準備懇談会を持ち、埼玉在住会員全員に声を掛けて 1 1 月 28 日の設立懇談会が大宮のさいたま市民会館で開かれた次第である。上述の 40 名のうち継続して協力いただける会員数が 15 名くらいに減ったため、この会合でも設立準備活動に加わっていただける会員を募った。その後は発起人会と名称を変更し 1 2 月 15 日の会合で支部長、副支部長（2 名）及び事務局長候補を決め、3 月の J A C 本部理事会に設立の申請をすべく具体的な活動に入った。

設立趣意書、埼玉支部規約、事業計画、発起人名簿、埼玉在住会員の支部入会についての同意書、支部役員名簿（候補者）等々の作成を 1 月より始め、2 月末には準備が整った。特筆すべきは、1 2 月 15 日以降の石橋現支部長、大久保現副支部長、富樫現事務局長お三方のご尽力である。3 月には大久保さんはカナダのヴァンクー

ヴァーで行われたパラリンピックに出かけられ、ご多忙の中でのご尽力で感謝しきれない。そして、3月10日の本部理事会に於いてめでたく設立が承認され、4月4日の埼玉支部の設立総会に至った次第である。

ついできながら言い訳がましく、旗振りを始めた私の設立準備活動での信念は、大げさだが、ともかく埼玉支部を設立することを第一義として、西郷隆盛がいみじくも述べた「御しがたき者」の心をまねて、多少強引なところがあつたと反省しているが、動いて来た。ともかく設立に漕ぎ着けることができ、一安心した。が、言うまでもなく、埼玉支部はこれからが本番なので、会員皆でよ

本部総会で埼玉支部がデビュー

6月12日、午後2時から東京都千代田区六番町の主婦会館プラザエフにて本部の平成22年度第1回通常総会が行われ、埼玉支部からも石橋支部長をはじめ6名が参加した。平成21年度事業報告、収支決算、財産目録のそれぞれの承認がおこな

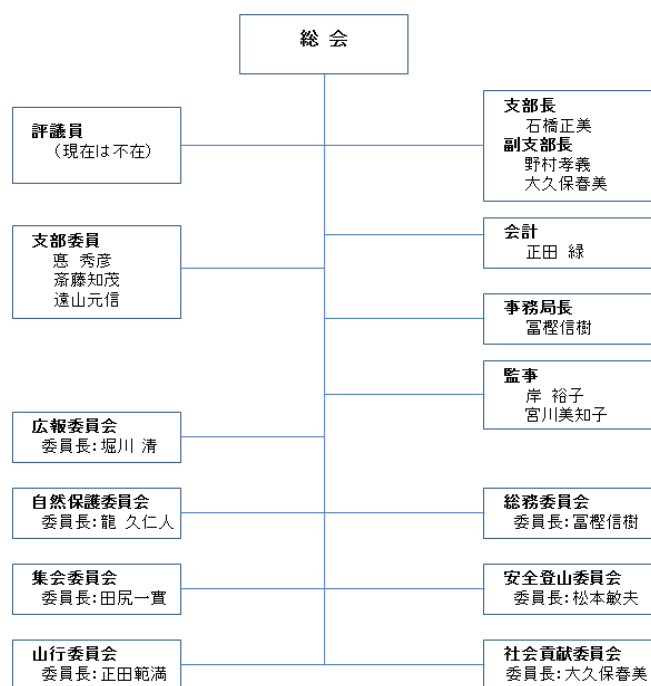
り良い方向に進めて行っていただきたく願う。

このたびの埼玉支部の設立準備活動を通じて、同じ山岳会に所属しながら新たに多くの会員を知り得たことは望外の喜びであった。皆さんそれぞれに多くの知識や体験をお持ちで、互いに学ぶことや影響を受けることが多く、これからの展開が楽しみである。末筆ながら設立に至るまでの準備委員皆様のご理解・ご協力に改めて感謝申し上げ、加えて、多くのご教示・資料の提供等を通じてお世話になりました神崎忠男副会長、本部総務委員の今田明子さんそれに篠崎仁千葉支部長にはこもも改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

われ、吉永会員からは新公益法人への対応についても紹介された。会務報告として平成21年度末会員数は5184名、対前年度末より133名減少であり、最後に新任支部長の一人として埼玉支部の石橋支部長の紹介があつた。

支部組織の紹介

支部の組織図



各委員会の内容と抱負

各委員会の委員長から委員会の内容と抱負を語って頂きました。各委員会では会員の皆様の参加をお待ちしております。

1. 総務委員会

埼玉支部の委員会では人数が一番少ないのが総務委員会です。

各委員会はこれから何かを企画・行動する委員会ですが、総務委員会は少し違います。総務委員会の行動は埼玉支部の縁の下の力持ちとして、少し地味ですが会の要でなければと思っております。総務委員会の主な仕事は5つに分けられます。

1. 会議の開催
 - ・支部委員会は支部長・副支部長・会計・監事・各委員長及び支部委員総勢16名で構成され、埼玉支部の行事の企画・実行を決定。支部各委員会と連絡・調整・総括。
 - ・総会・臨時総会・評議会・総務委員会等の会議を開催し、懇談会や研修会は集会委員会とも連携して開催を推進。
 - ・会議室の確保・議題の提示・会議の進行。議事録作成配布。
2. 支部会員に対する情報の提供を広報委員会と連携
 - ・メールや郵送による情報提供
 - ・支部紹介資料の作成・入会案内状の作成
3. 会計業務
 - ・予算の立案、会費の徴収・本部助成金の請求
 - ・会計管理（出納帳の作成）財務管理
 - ・決算業務・会計監査
4. データ管理
 - ・会員名簿・住所データの管理・住所ステッカー管理
5. その他
 - ・埼玉支部への入会手続き

以上が埼玉支部の内部に発生する総務の主な仕事になりますが、対外的に日本山岳会本部や他支部との連絡調整や他の団体との窓口にもなります。会員が山行や行事を楽しめるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。(富樫信樹)

II. 広報委員会

今回の支部報創刊号はいかがでしょうか。広報委員会の使命は、支部報をはじめとして、支部の内外への活動状況報告が第一です。特に、各委員会と協調して支部会員へ委員会活動に関する情報提供をするのが当面の課題と考えています。いずれは、埼玉県の山や岳人の紹介を充実させ、埼玉らしいスタイルを出し、様々な話題を提供することで、山の楽しみを発信して新しい世代のクライマー、ハイカーが出て来てくれると嬉しいです。

- ・支部報の発刊(場合によっては「たより」による行事速報)
- ・支部会員、各委員会のメーリングリスト整備
- ・HP(ホームページ)の開設・運営
- ・地域への情報提供(HPで情報提供による啓蒙)

支部の顔ともなる、支部報とホームページは、会員の皆さんからの情報(コンテンツ)が頼りですので、積極的な情報提供をお願い致します。また、委員会の現在のメンバは4名です。興味をお持ちの多くの方の参加をお待ちしております。

最後になりますが、ホームページの公開アドレスは最終頁に示したとおりです。是非ご覧ください。(堀川清)

III. 自然保護委員会

第1回会合が6月8日、JACK大宮で開催されました。委員会所属希望の24名のうち13名が参加し、これからどんなテーマでどのような活動を進めていくかが話し合われました。全く初めての顔合わせでしたが活発な意見が飛び交い、会議後の懇親会でも夜遅くまで論議が弾みました。山が好きという1点でかくもすぐに打ち溶け合えるとは、とにかくいいスタートがきれたかなと思います。

自然保護団体にはいろいろなタイプがあり、守るべきテーマができて止むにやまれず発生したというのが一般的なのですが、当委員会の場合はそういうわけではありません。ただ、日本山岳会の定款をうけて制定された支部規約に「自然保護活動の推進」が活動目的の一つに掲げられていることからして、山岳を中心とする自然保護に関して何らかの貢献を果たして行きたいという思いは共通の思いであろうと思います。

自然の改変を伴う大掛かりな開発と破壊はひとところに比べ少なくなったとはいえ、今でもこれからもどこにもありうることであり、これを監視することが当委員会の一つの役割であ

ることに変わりはないでしょう。埼玉県下の問題は、全国的な耳目を集めているテーマはそう多くありませんが、地域的な課題はどこにでも普遍的に存在しており、当然ながらその守備範囲として対応する必要があると思います。

また、最近では登山者自体に起因する破壊も目立ってきており、オーバーユースなどの諸問題にどういった解決を図っていくか。有害鳥獣問題の域を超えて生物多様性にとって深刻な害を及ぼし始めているニホンジカの保護と駆除の折り合いをどうするのか。など、相異なる意見の中にあつて、オピニオンリーダーとしての役割も当委員会に求められることだと思えます。どういったスタンスでものを申し、活動を行って行ったらいいのかわかり議論をしていきたいと思えます。

また環境維持や失われた自然の回復のための実践活動を進めていくことも、活動の大きなテーマになるものと思えます。第1回の議論では、大都市圏近郊に所在する独自性を生かし、埼玉ならではのユニークなテーマに取り組んでいくことを目指してその具体的な内容を今後詰めていこうということになりました。

しかしながら会は今始まったところです。自然保護の活動に決まった形はありません。とにかく倶楽部ライフを楽しむところからスタートしたいと思います。日本山岳会の自然保護は岳人のもの、自然保護団体のそれとは一味違った強みもあり、そのよさを生かしていければいいなと思えます。

自然保護委員会に支部の皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。情報をお寄せ下さい。(龍久仁人)

IV. 集会委員会

総務・山行・自然保護・安全登山・及び社会貢献の各委員会と連携し、懇親会、講演会、研究会、海外トレッキング等を計画、実施します。今年度は、創立後間もない初年度であり、何をなすべきかを手探りしながら、新生埼玉支部の活動に寄与したいと思っております。

現時点で考えている催しは以下の通りです。詳細はホームページでお知らせする予定です。

☆9月初旬頃 講演会「中高年の安全登山」 野村孝義会員

☆9月下旬～10月初旬頃 「インドネシア ジャワ島トレッキング」(9-10日間)

ジャワ島中西部の山であるスンビン山(3371m)、ムルバム山(3142m)、ラウ山(3265m)を登りつつ、ボロボドゥール、プランバナン遺跡、グトンソング遺跡、観光等を行なう。

☆11月初旬頃 研究会「登山道の整備」(社会貢献・自然保護・

山行委員会と共催)

現在、登山道が荒廃している山、人工物で固められている山が数多くあり、安全登山、自然環境破壊上非常に問題だと思ふ。金をかけず、安全で環境に易しい登山道の整備について現地で検討し公共団体等への提言の資としたい。

☆12月初旬頃 講演会「自分流の海外登山」

行きたい海外の山の資料を集め、自分流のオリジナル海外登山を実行している人(大山光一会員、田尻實会員)に登山の面白さ、困難に面した時の対処等の経験談を聞く。

☆12月中旬頃 忘年懇親山行(山行委員会と共催)(1泊2日)

埼玉県立小川げんきプラザで懇親会を行ない、官ノ倉山を登山。

☆1月下旬 スキー懇親会(2泊3日)

JRスキーツアー(2泊3日で新幹線、バス、ホテル(2食付)、リフト込み 2-3万円代)を利用。田沢湖高原温泉をベースにグレンデスキー、乳頭温泉ツアー、秋田駒ヶ岳7合目からのスキー滑降(初級者コース)等。(田尻一實)

V. 山行委員会

この度、埼玉支部が発足し、山行委員会を担当することになりました。山に関しては幾多の諸先輩方を差し置いて、大役を仰せつかり誠に身の引き締まる思いで一杯です。

さて、山行委員会としまして、支部員の皆様から様々な山行計画の立案と実行を通じて、楽しいクラブライフを達成できるように、大きな期待をよせられていると思ひます。

初年度の目標と致しましては、

- ①会員親睦の登山を目的とした、四季の山(春、夏、秋、忘年、冬)の計画と定着化
- ②海外登山の活性化を目指して、海外登山担当委員の設置と中期計画の立案。
- ③国内登山と若手育成を目的として担当委員を設置し、国内登山計画の支援と計画チェックや若手新入会員の勧誘及び育成、各種レベルアップ講習等を計画、実施。
- ④埼玉50山を選定し、会員間の登山の意欲を促進する為に、スタンプラリーを実施。
- ⑤会員各位より募集登山を募り、会員相互の登山の実行についての仕組み作り。

を行って行きたいと思ひます。

会員皆様ご期待の四季の山では、夏は北沢峠から甲斐駒、早川尾根に行きます。時期は8月初旬に計画をしています。また、秋は会津高原に宿泊して、紅葉の山を登ろうと10月下旬に予定しています。

これらの計画は、近々に決定し案内書送付、ホームページ掲載して、募集予定です。ご参加の方をお待ちいたします。

また、積極的登山を計画、実施するためには、会員各位より山行委員会として、お手伝い致します。構成員を募集致します。お力をお貸し頂けます方は山行委員会正田へご連絡頂けますことをお待ちしております。(正田範満)

VI. 安全登山委員会

現在10名のメンバーです。活動予定は次のとおりです。

- ・救急時の連絡体制
- ・山岳保険に関する情報収集
- ・埼玉県内の山岳遭難情報(ホームページ上で提供)
- ・支部会員からのヒヤリ・ハット事例の募集・集計・掲載
- ・支部会員向け講演会(予定;詳細はホームページでお知らせします。一部、集会委員会との協賛)
 - ー 登山計画の立て方(7~8月頃)
 - ー 山岳救急医療に関する講演会(9~10月頃)
講師は野村副支部長に依頼
 - ー 山岳遭難に関する講演会(1~3月頃)
埼玉県警山岳救助隊に依頼(松本敏夫)

VII. 社会貢献委員会

現在9名のメンバーで活動。現在の課題は次のとおりです。

- ・山の日推進について
- ・埼玉支部の社会貢献事業について
 - ー どのような社会貢献事業があるか?
例えば、講演活動、林間学校での登山支援、障害者登山支援、障害者向け山の情報、高齢障害者施設訪問・写真展示・山の話、どういふ登山道を作ればよいか提言、埼玉の山の良さ、埼玉50山の普及、武甲山の緑復活、宝登山を埼玉の「高尾山」に
 - ー 県内の山に関係した組織、社会貢献対象の組織は?
例えば、学校の山岳会・愛好会、県岳連、さいたま市岳連、ボーイスカウト、ガールスカウト、森づくり、県警、山用品店、社会人山岳会、教育委員会など
調査してデータをまとめて、できることから始める
- ・障害者の登山について
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会から協力依頼が来ている。
- ・メーリングリストを利用して情報交換、データ集約
(大久保春美)

埼玉支部 会員名簿 (2010年6月末現在) 会員番号と氏名の一覧

3765	長尾登之助	7528	戸山芳一	10478	阿部健太郎	12427	平川陽一郎	13842	岸 裕子
3972	竹内 堯	7668	眞仁田美智子	10618	関口寿一	12446	龍 久仁人	13902	晝間弘子
4367	新井信太郎	7807	金子 宏	10633	鈴木捷夫	12478	渡邊 浩	13916	渡辺嘉也
4574	藤野欣也	7898	柳澤 宏	10891	轡田隆史	12654	中村直樹	13918	手島祥雄
4824	大橋 晋	8014	掛川統之	11015	山本晃弘	12711	宮崎 孝	13948	井上英一
5068	市川次良	8036	宮崎幸博	11116	召田俊雄	12738	刈谷靖彦	13959	多田 稔
5092	五十嶋一晃	8078	堀尾勝巳	11166	下野武司	12808	眞田幸俊	13966	横山真一
5106	長沼真澄	8091	石橋正美	11183	岩城スミ	12823	正田範満	14013	片野美和
5288	野村孝義	8267	北原秀介	11202	三角 朗	12824	正田 緑	14036	原田邦彦
5779	市川章弘	8669	堀川 清	11508	熊谷友昭	12941	加藤幸男	14059	斉藤友護
5873	松崎中正	8670	堀 雅裕	11523	加藤求二	12950	中島孝治	14085	相原俊夫
5992	山田硅二	8710	西尾文明	11722	浅見信生	12970	岩崎守男	14109	領家英子
6132	吉田寛治	8712	中田 勇	11824	大山恭司	12985	南波克行	14110	佐藤京子
6170	錦織英夫	9024	宮崎 稔	11898	森田芳和	12991	加藤 仁	14326	平野和夫
6280	牧 繁緑	9191	湯村光典	11952	小島千代美	13179	下斗米紘二	14342	金丸一豊
6349	田部井淳子	9217	山本宗彦	11961	田尻一實	13239	右川清夫	14421	大塚武雄
6389	梅本知榮子	9530	水越裕哉	12006	岩本芳雄	13299	須川眞一	14463	早川好治
6477	工藤紗千子	9611	恵 秀彦	12047	松本敏夫	13432	下野美穂子	14551	山崎康司
6565	吉川 昭	9626	高嶋徳紘	12070	田中 司	13441	富樫信樹	14599	前 美智子
6734	津田保太郎	9744	柴山勝士	12126	笠原紀子	13487	小川元章	14627	高橋 努
6828	野口勝志	9887	湯本一彦	12149	熊本道夫	13561	高橋耕志	14647	稲越洋一
6849	村田恭邦	9983	高田知典	12160	朝日 守	13583	荒井真二		
7117	田口憲司	10054	太刀川喜久男	12234	山下順子	13592	向田吉彦		
7208	新 篤雄	10065	岡村美邦	12244	高崎辰箕	13670	小島 閑		
7249	大久保春美	10134	中島達哉	12286	吉田克雄	13673	深井幾蔵		
7399	大城 泰	10252	森 章	12341	町田週一	13674	市川 一		
7426	下崎雄二	10350	川口直能	12378	遠山元信	13795	宮川美知子		
7453	大山光一	10383	斎藤幹雄	12380	竹内倭子	13839	斎藤知茂		
7496	田沼健司	10397	酒井明德	12399	新井 昇	13841	岸 哲生		

☆会員番号・名前に間違いがあればご連絡ください。

編集後記

設立総会の会場のそばでは桜が咲いていたが、今や梅雨の時期となってしまった。慣れない作業で時間がかかってしまったが、ようやく支部報第1号をお届けすることができるのは、憧れの山城に足を入れたときのように嬉しい。埼玉支部の活動とともに、支部報が支部会員の皆さんの身近な存在になるように、我々広報委員一同は各委員会と協調して誌面作りに励みたい。

日本山岳会埼玉支部報 第1号
2010年(平成22年)7月15日発行
(社)日本山岳会 埼玉支部 発行者:石橋正美 編集者:堀川清
事務局:〒365-0053 鴻巣市緑町5-16 富樫方
ホームページ: <http://jac.ec-site.jp>
Eメール: info@jac.ec-site.jp